平成 23 年 8 月 3 日（水）

四国健康ナビ

胎児診断の進歩 著しく

徳島大学病院産科婦人科
加地 剛助教

赤ちゃんが生まれつきの病気を持って生まれてくることは、決して珍しいことではありません。出生児の2～5％に認められます。従来は生まれてから調子が悪くなって初めて気付くことが多かったのですが、最近は生まれる前、胎児の時に病気が見つかることが増えています。すなわち胎児診断されて生まれてくるということです。では、胎児診断することのメリットには何があるかということになりますが、主に三つのことが挙げられます。

まず最も重要なことですが、妊娠中に胎児の病気が分かることで、分娩方法や出生後の治療について事前に十分な検討ができます。それにより、子が出生後速やかに最善の治療を受けることが可能となります。

また、胎児診断は、妊婦さんやその家族にも大きなメリットがあります。妊娠中に診断や治療についてゆっくり聞くことができるので、分娩の頃には心の準備ができます。これが二つめのメリットです。

三つめとして、最近注目されている胎児治療への広がりがあります。胎児診断をすることで、胎児のうちに治療まで行ってしまうことも可能になっています。残念ながら現在のところ、胎児治療ができる病気は限られていますが、いくつかの有効な病気があります。

その一つが胎児不整脈です。胎児の脈拍が非常に速くなる頻脈や逆に遅くなる徐脈では、胎児が水ぶくれ（胎児水腫）になったり、亡くなってしまうことがあります。しかしながら、早期に発見し胎児治療をすることで、良くなる子がいることが分かってきました。当院でも特殊な超音波装置を使い、肝臓と大動脈の血流を測る新しい診断方法を考案し、積極的に胎児不整脈の診断を行っています。

胎児診断の進歩は著しいものがあります。しかしながら、全ての病気が分かるわけではありません。また、生まれる前から病気が分かってしまうことのデメリットも存在します。最も大事なことは、胎児診断が、生まれてくる子はもちろん、その家族の幸せに少しでもつながっていくことだと思います。